

# 令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

守山市教育委員会

## 1 調査概要

### (1) 目的（実施要項より）

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 対象 小学校第6学年、中学校第3学年

### (3) 内容

#### ●「教科に関する調査」 【国語、算数・数学、理科】

調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、以下のとおり。

- ① 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### ●「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」

- 児童生徒に対する調査
  - ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- 学校に対する調査
  - ・ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### (4) 調査日 令和7年4月17日（木）

## 2 調査結果から市全体の概要

### (1) 学力調査

#### 【小学校】

国語科：県平均を上回り、全国平均とほぼ同等の正答率  
算数科：県平均も全国平均も上回る正答率  
理 科：県平均も全国平均も上回る正答率

#### 【小学校国語課題】

文章と資料を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりして、必要な情報を見付けて自分の考えを記述することに課題が見られた。(読むこと)

#### 【小学校算数課題】

「10%増量」の意味など、基準量を100%や1において、“増えた分”と“増量後の量”を区別しながら、図や式、言葉を結びつけることに課題がみられた。(変化と関係)

#### 【小学校理科課題】

これまでの経験や、観察、実験の結果などを比較することで差異点や共通点に気づき、そこから見出した「問題」を文にまとめることに課題がみられた。(生命)

#### 【中学校】

国語科：県平均を上回り、全国平均とほぼ同等の正答率

数学科：県平均、全国平均を上回る正答率

理 科：県平均、全国平均を上回る正答率

#### 【中学校国語課題】

文章の構成がどのような効果をもたらすのか、自分の考えを文章の内容を適切に取り上げて説明することに課題が見られた。(読むこと)

#### 【中学校数学課題】

「相対度数」や「素数」など、知識・技能を問う問題で用語の意味を理解して解答することに課題が見られた。

#### 【中学校理科課題】

問題文から生徒が疑問を感じたり、問題を見いだしたりし、それを解決するための課題を自分で表現することに課題が見られた。(粒子)

### ○ 本市における学力向上策

上記の結果から、本市の児童生徒は今回出題された問題を概ね理解していると言えます。本市では、これまで児童生徒の学力向上に関わって以下のような取組を進めてまいりました。こうした取組を、今後も継続的に発展させていきます。

#### ① 小学校下学年までの少人数学級編制事業

市費負担教員を採用し、32人程度学級を実施します。きめ細かな指導を図ることにより、義務教育9年間の基礎を築く小学校1.2.3年に学びの基礎となる生活や学習習慣の定着を図ります。(本年度8名採用)

## ② 中学校区別学力向上連携事業

小学校と中学校の教員がお互いに授業を参観し合ったり、研究会に参加し合ったりすることで、それぞれの授業の良さを学び合い、指導力の向上に生かします。合同の研究テーマを設定し、中学校区の課題や児童生徒の様子を共有し合い、児童生徒理解を深め、いわゆる中1ギャップの解消に努めます。

## ③ 調査研究事業

守山市教育研究所が主催する、指導力向上に向けた研修会の充実と指導力向上に向けた調査研究をすすめ、教職員の資質の向上を図ります。

## ④ 授業改善・開発事業

一人一台のタブレット端末、大型提示装置、デジタルドリルなどのICT機器の利用により、子どもの学習意欲が高まる授業、子どもの思考が深まる授業を推進します。

## ⑤ 学力向上事業

小学5年生で学力診断調査を実施し、学習到達度に関する全国との比較ができる資料をもとに、早期から個に応じた指導を行い、児童生徒の学力向上を図ります。また一人一台の学習端末を活用して、自分の考えを書いたり、友だちの考えと比べたりすることで、考え方の違いに気づきながら協働的な学習を進めます。そして互いの考えを共有し、話し合う喜びを通して、主体的に学び合う力を育てます。

## ⑥ A L T（英語指導助手）配置事業

小学3・4年生では年間15時間、小学5・6年生では、年間35時間の授業にA L Tが入り、対話的な英語力の習得を図ります。

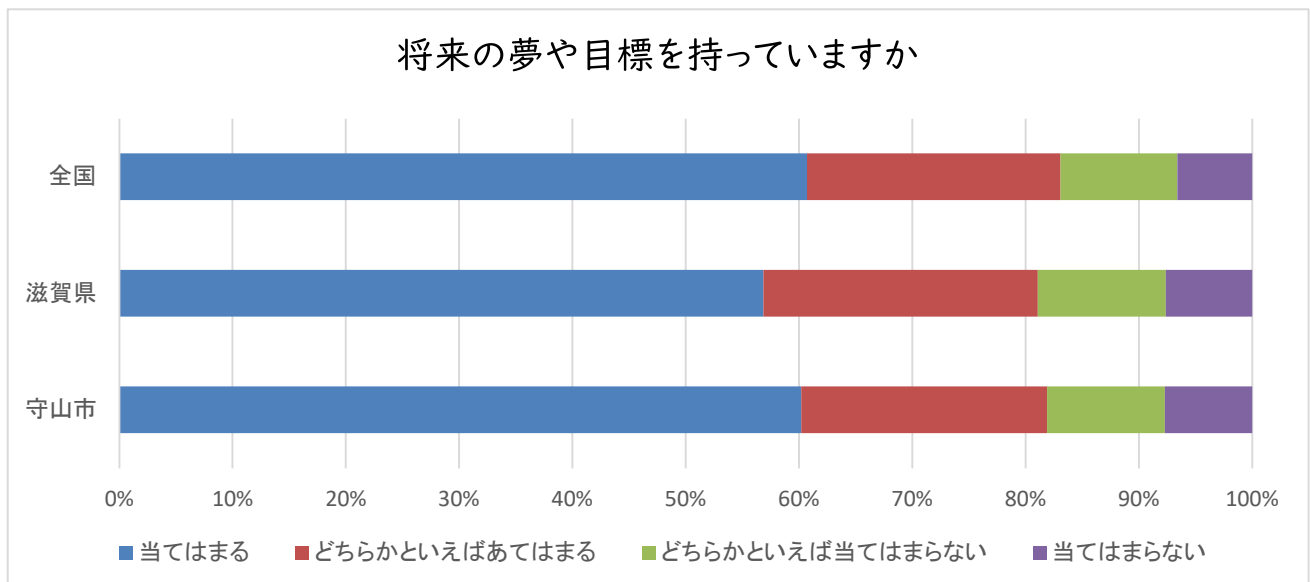
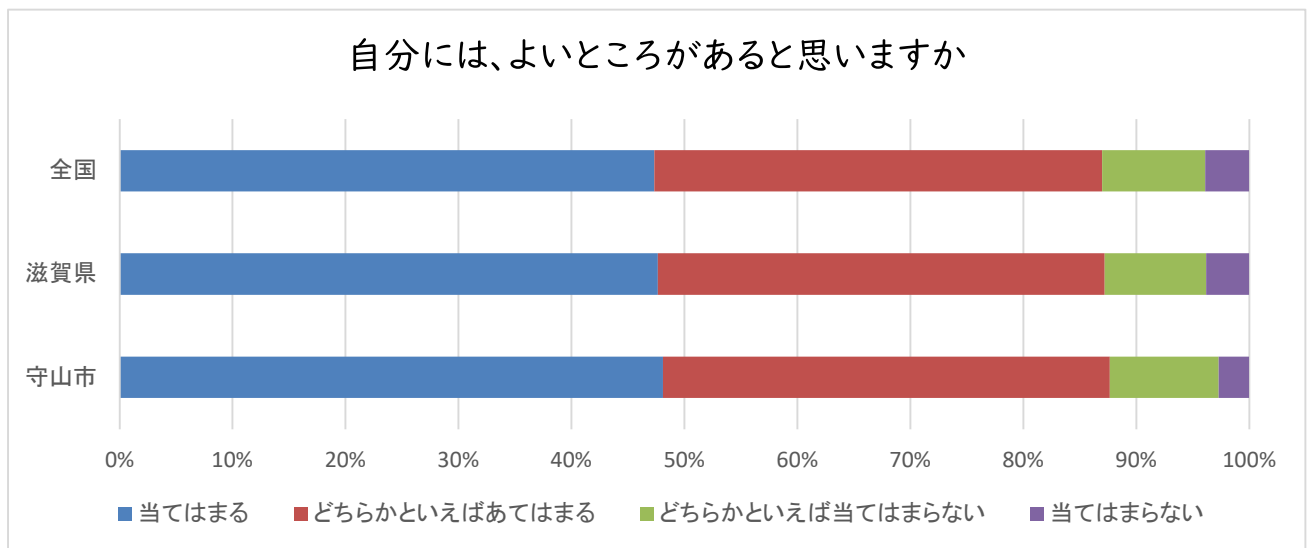
## ⑦ 教育委員会事務局指導主事等の学校訪問

各校における、全国学力学習状況調査の分析及び、その結果をふまえた学ぶ力向上策についてヒアリングを行い、必要な助言や提案を行っています。また、各校の校内研究に関わり、授業参観等を通して指導・支援を行うことで、授業改善や指導方法の工夫を促すとともに、学び合う学習集団作りを推進しています。

引き続きこれらの事業に取り組むとともに、日々の授業を大切にしながら、守山市の子どもたちが新しい時代をしなやかに生きる力を育めるよう、教育委員会として各学校を支援していきます。

## (2) 学習状況調査

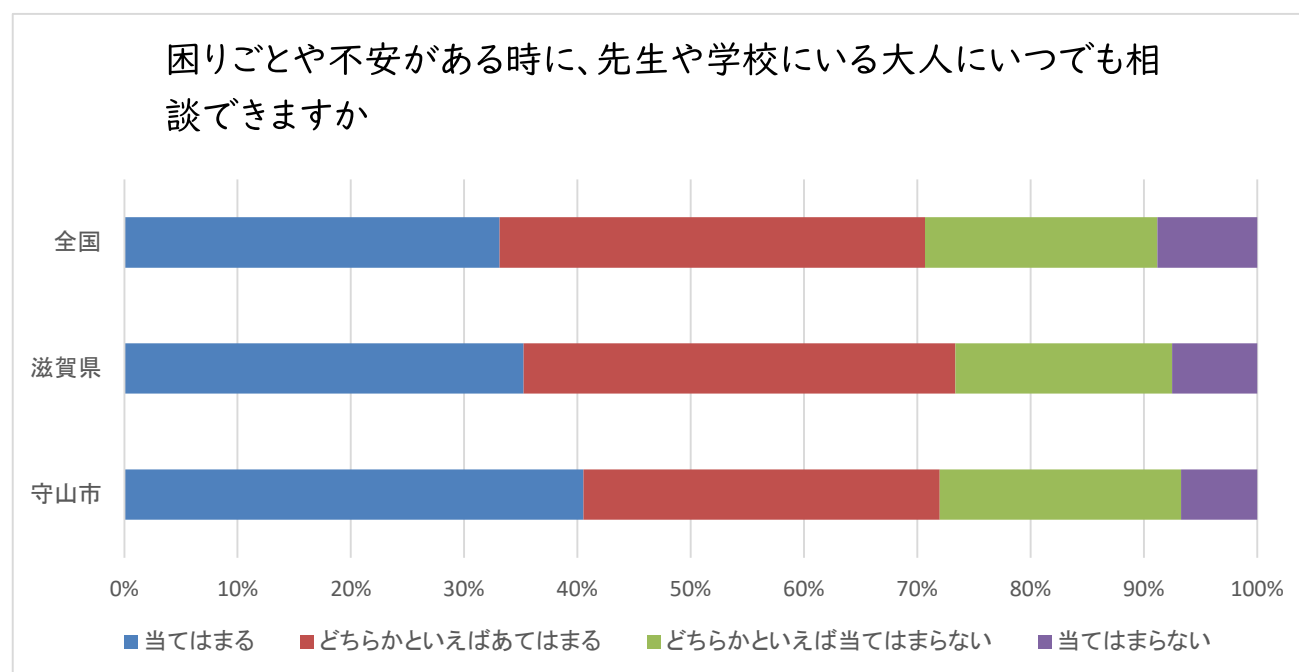
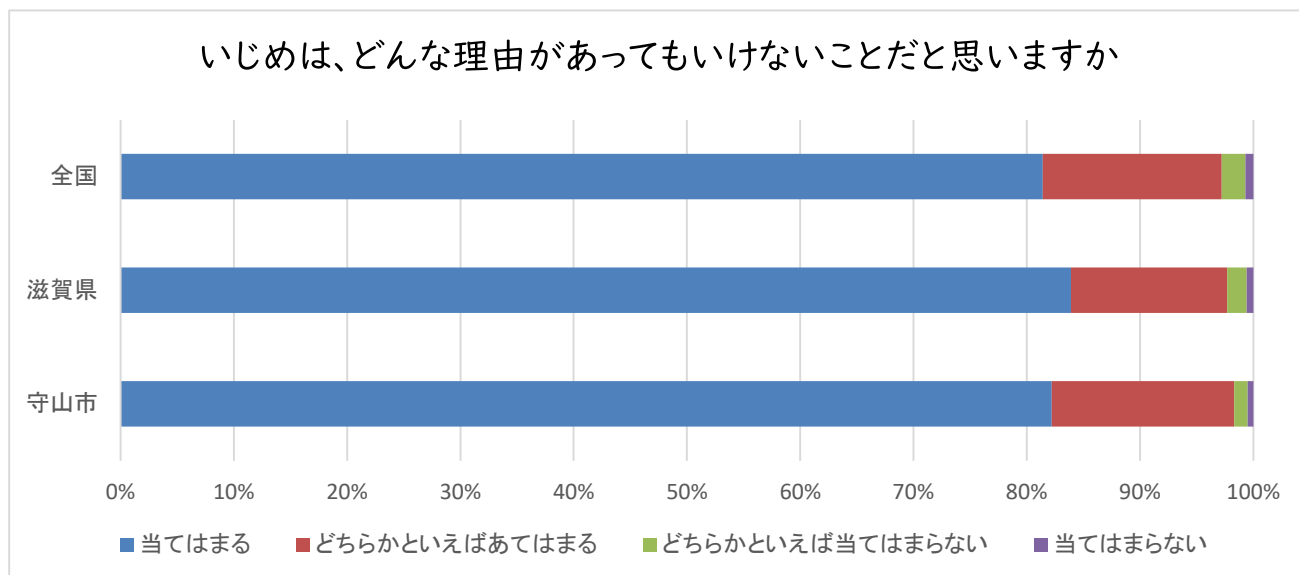
### ○ 小学6年生の結果



「自分には、良いところがあると思いますか」の質問については、県や全国とほぼ変わらない回答となっています。幼少期からの子どもたちが、自分には良いところがあると感じられるようにするためには、自身の良さを実感できる、落ち着いた、安心のできる環境が大切です。何ごとにおいても取組の姿勢やできたことを積極的に褒めていくことで、子どもたちが安心してすごせる環境を作り出すことが大切です。

さらに、すべての子どもたちが自分らしく輝くことができるよう、温かい学校風土の醸成に努め、特別活動などの充実により、認め合い高め合う集団づくりを推進します。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、肯定的な回答が県よりやや高く全国とほぼ変わらない割合となっています。子どもたちが、将来の夢や目標を意識できるように、地域の方々に講話をしていただくなどこれからも取組を進めていきたいと考えます。

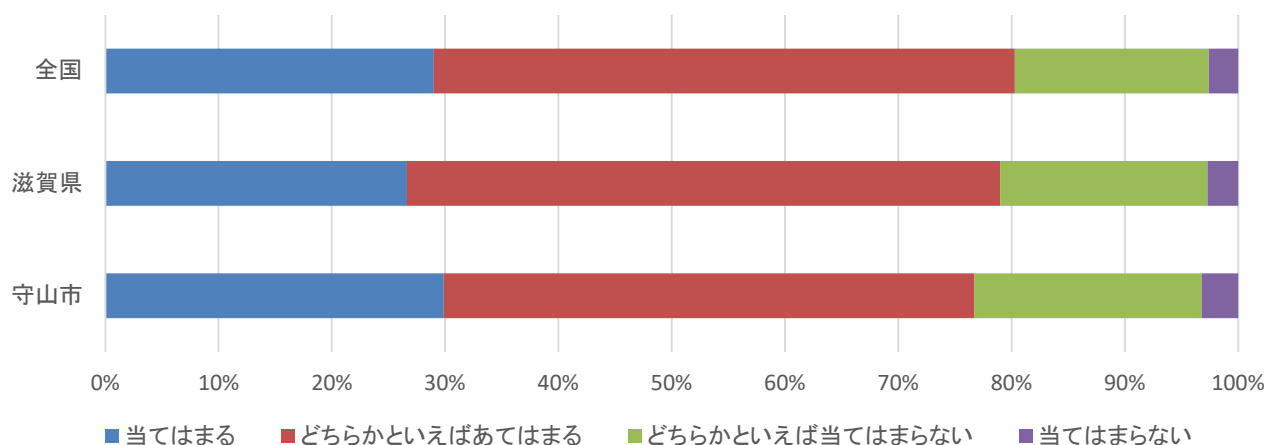


「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問については、肯定的な意見が全国とほぼ同じ割合でした。相手の心や尊厳を傷つけるいじめ行為は正当化できないことについて、学級指導や道徳科をはじめ、あらゆる場面で適切に指導を進めていきます。その上で、いじめ行為に対しては毅然とした態度で臨み、適切な指導に努めます。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問の強い肯定を表す回答が、全国平均を上回りました。さらに、教職員自らがカウンセリングマインドを活かしたコミュニケーションに留意しながら、温かい学校風土の醸成に取り組めます。

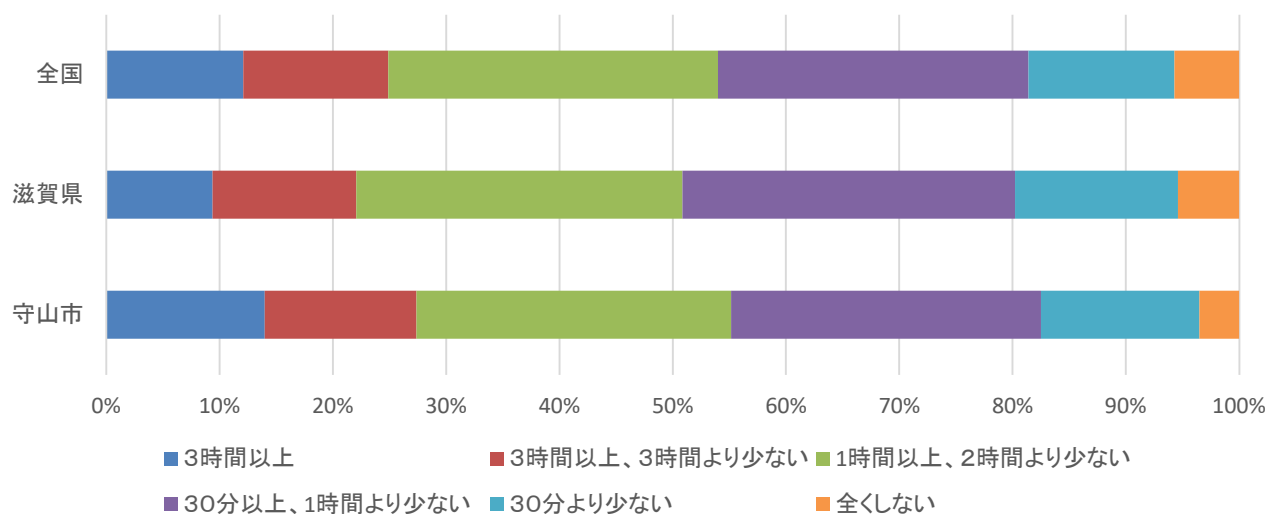
児童生徒の心身の状況を把握するシステム（ここタン）などを活用し、子どもたちの不安や心配事などの早期発見に努め、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりに努めてまいります。

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

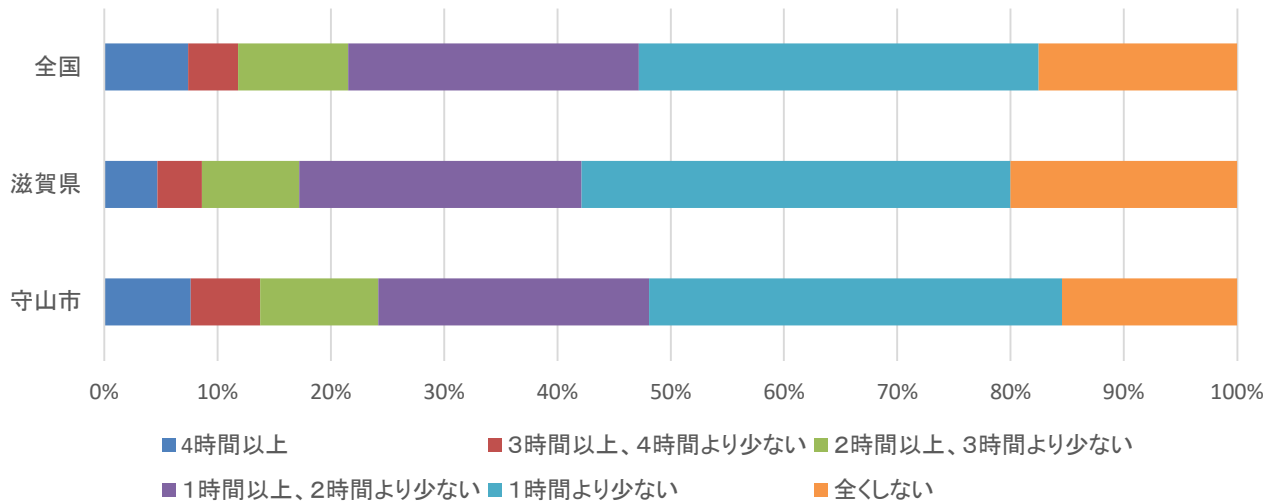


「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対しては、肯定的な回答は全国よりやや下回りました。授業の「めあて」として設定された課題を、仲間と一緒に考えたり、自分でじっくり考えたりしながら自分の学びとして「ふりかえる」ことが大切であると考えます。子どもたちが授業の課題を意識して、積極的な態度で参加できるような課題を設定するよう、努めてまいります。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

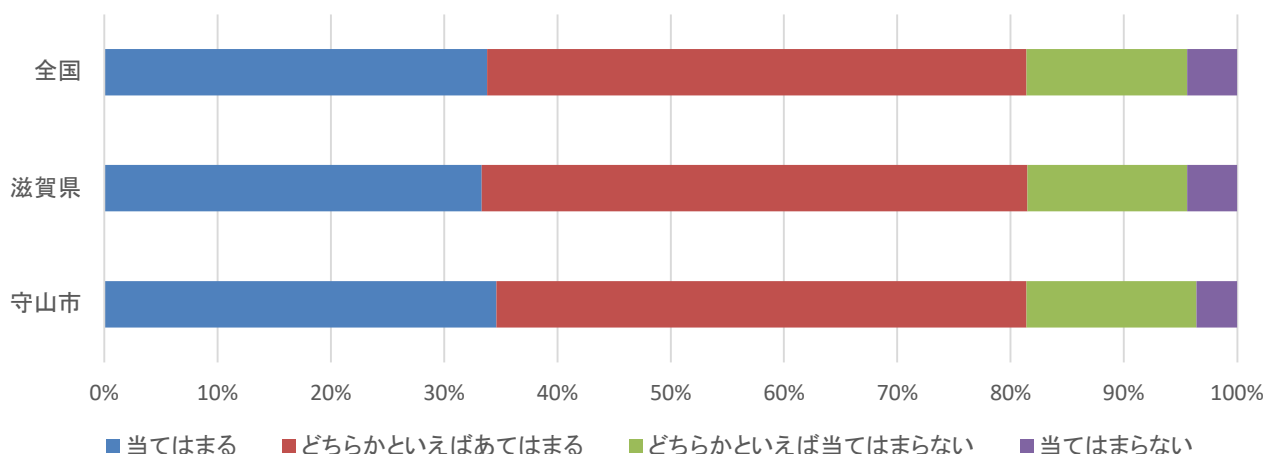


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



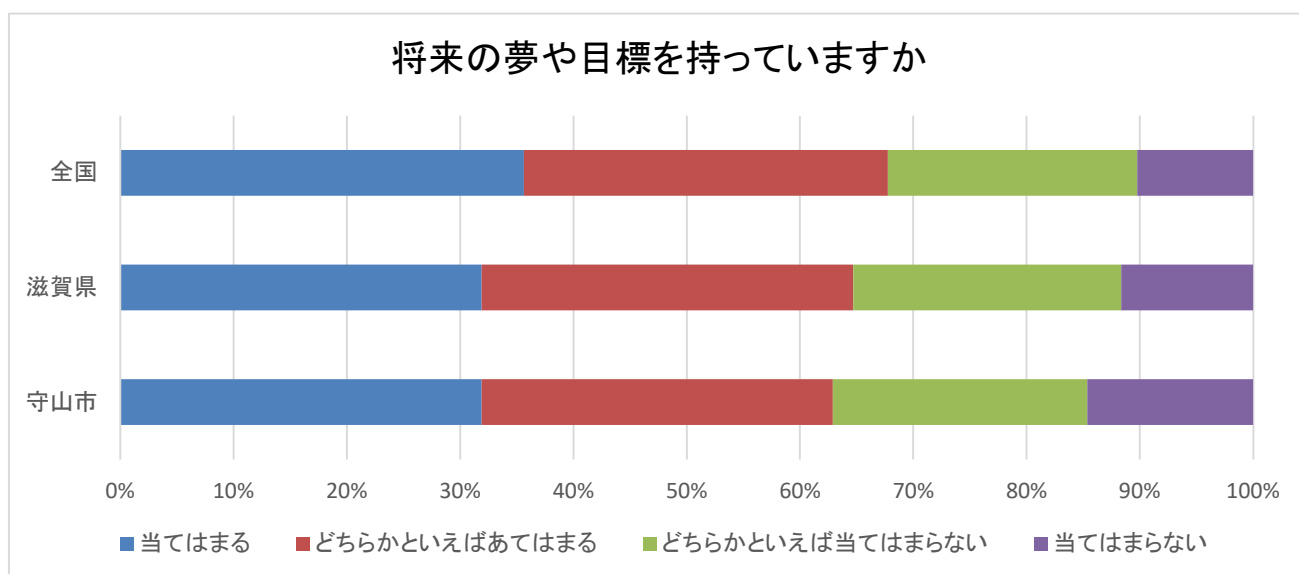
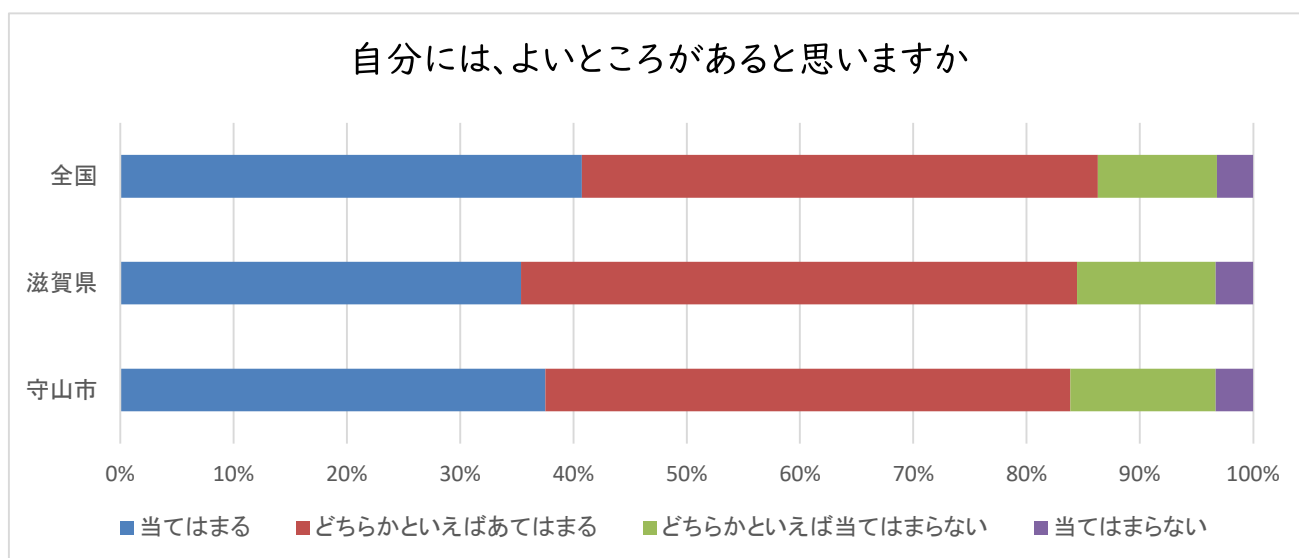
平日（月～金）、および休日（土・日）の家庭学習の時間の割合です。どちらも全国と比べて学習時間がやや多くなっています。将来の夢や目標に向かって、主体的に学ぶ子どもたちの育成のためには、見通しを立てて学習に取り組めることが大切です。子どもたちが計画的に学習できるよう、保護者と連携した取り組みを進めます。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



「地域をよくするために何をすべきか考える」については、県や全国とほぼ同じ割合の回答となりました。ふるさと守山を愛し、地域に貢献できる子どもたちを育成するため、いろいろな教科で地域教材を題材にして学習を進めています。また、総合的な学習の時間を核として地域学習を推進することにより、地域社会の一員として社会参画の意識を一層高めていきます。さらに、地域の伝統文化や行事への関心を高め、積極的な参加を促進します。

## ○ 中学3年生の結果



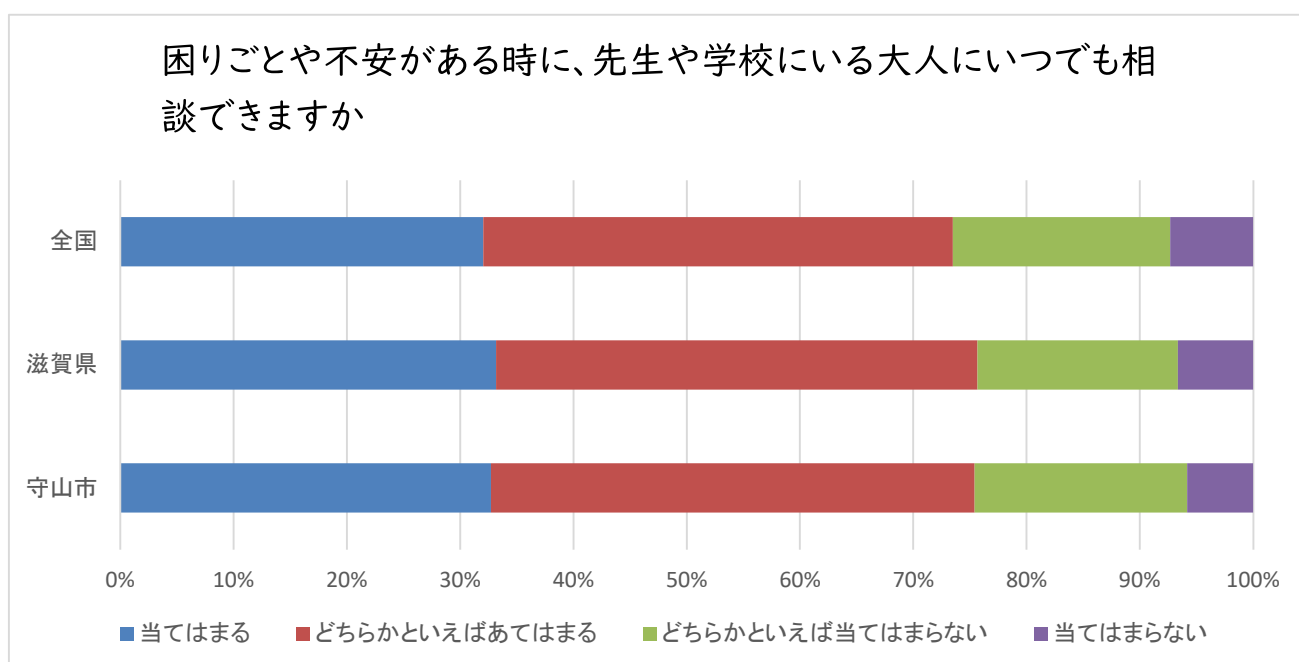
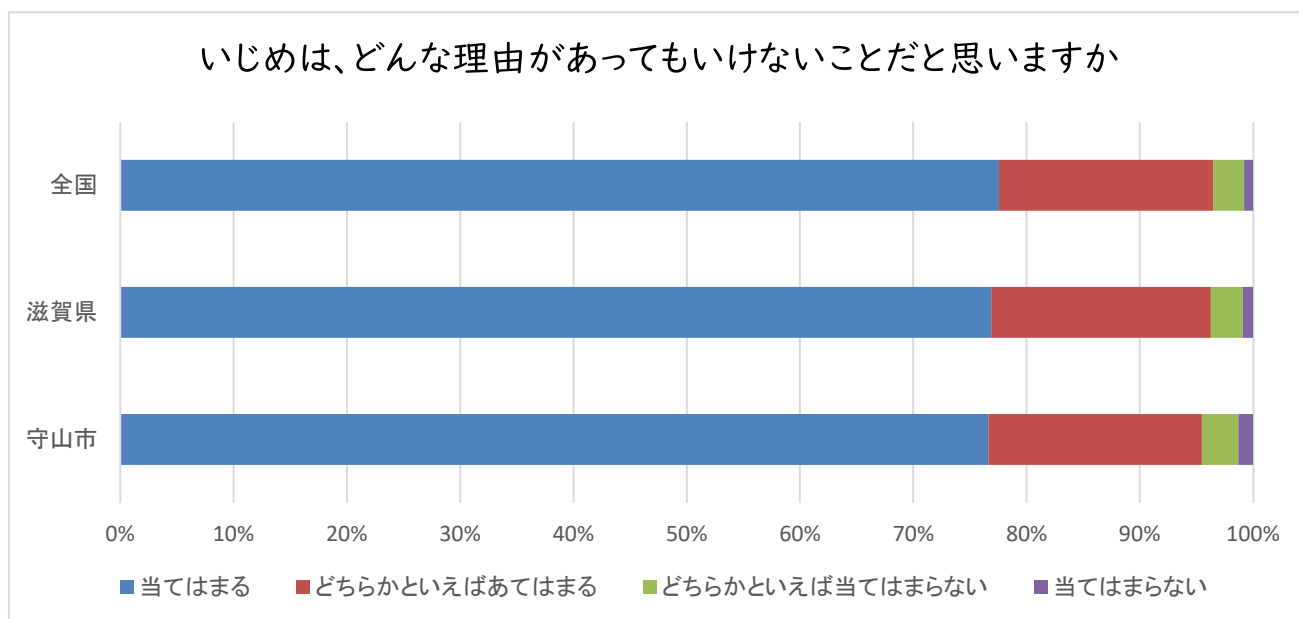
どちらの項目も、全国平均よりもやや低い割合となっています。

中学校では、様々な職業の社会人を講師に招いてお話を聞く「職業講話」や、実際に仕事を体験しながら、働く大人の姿や仕事への思いに触れる「職場体験」を通して、将来について考える機会を設けています。

思春期を迎える生徒たちが、自分の良さを実感し、将来への希望を持てるよう、系統的にキャリア教育を進めていくとともに、生徒に寄り添った声かけ・関わりを大切にしていきます。

さらに、認め合い高め合う特別活動を推進し、また、個々の生徒の関心に応じた部活動については、地域や関係団体との連携により適切に進めます。



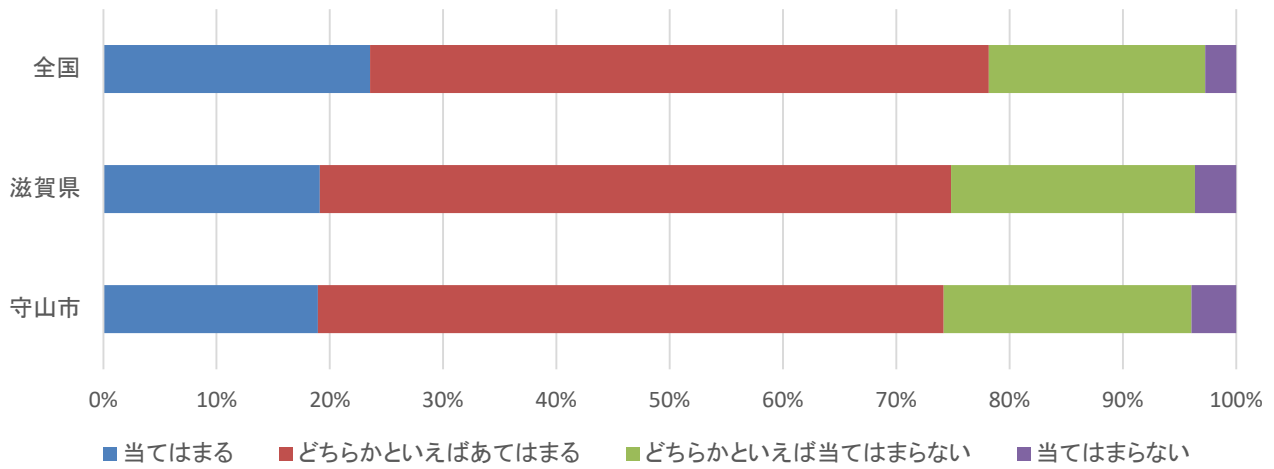


「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問については、どちらも県や全国とほぼ同じ割合でした。

相手の心や尊厳を傷つけるいじめ行為は正当化できないことについて、学級指導や道徳科をはじめあらゆる場面で適切に指導を進めていきます。その上で、いじめ行為に対しては、毅然とした態度で臨み、適切な指導に努めます。

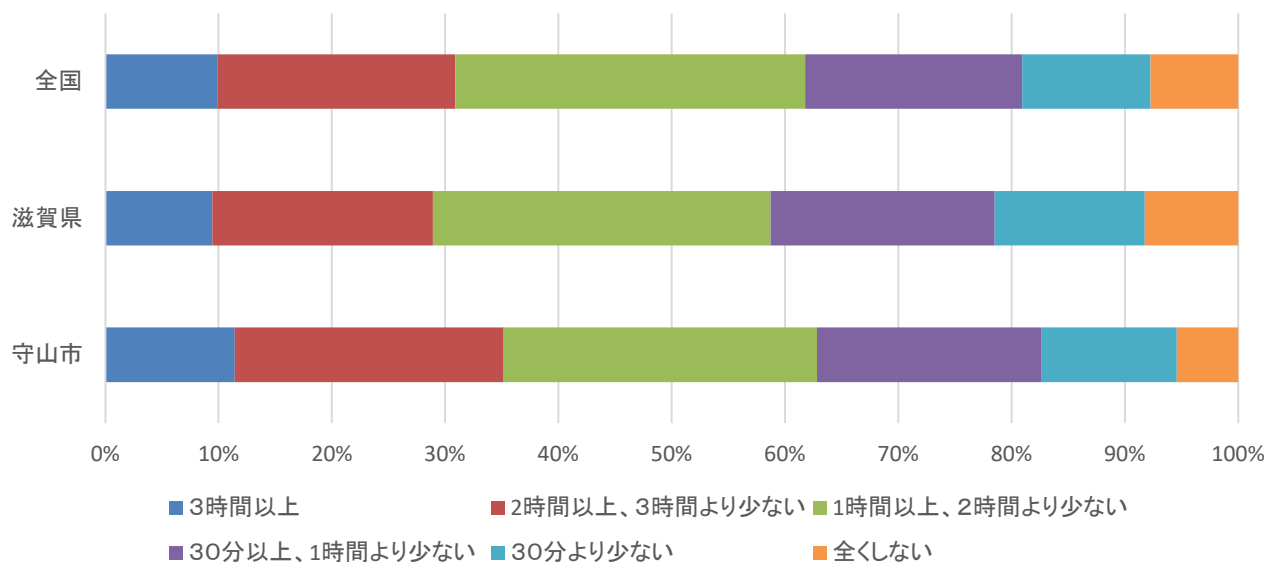
また今後も、児童生徒の心身の状況を把握するシステム（ここタン）やスクールカウンセラーなどを活用し、生徒たちの小さなサインを見逃さず、安心して過ごせる学校づくりに努めてまいります。さらに、教職員自らがカウンセリングマインドを活かしたコミュニケーションに留意しながら温かい学校風土の醸成に努め、生徒が気軽に相談しやすい環境づくりを進めます。

1, 2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

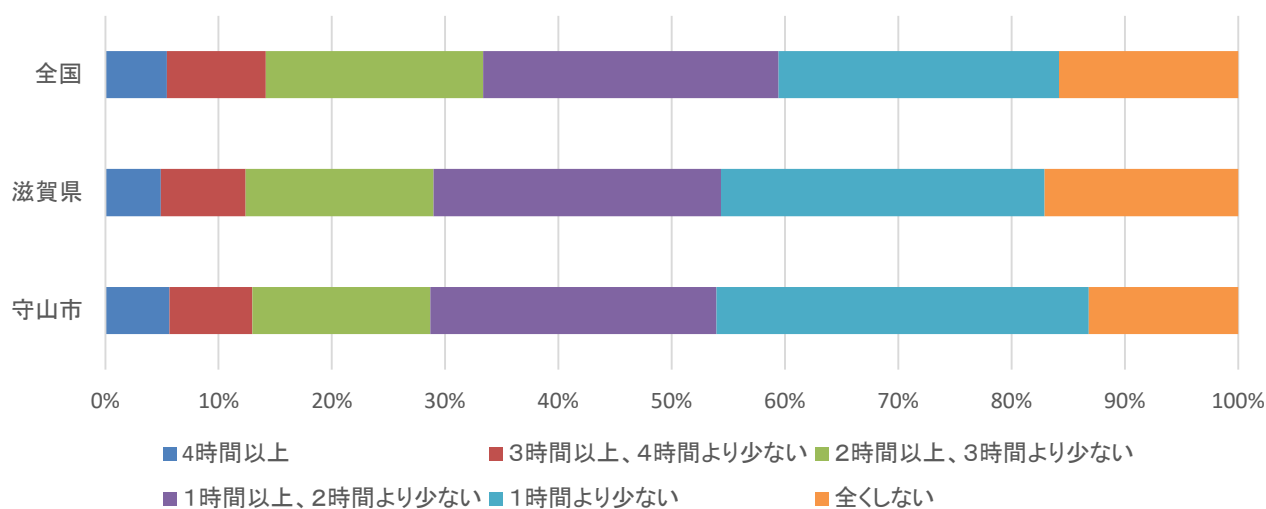


「1, 2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対しては、県や全国をやや下回る割合でした。授業の「めあて」として設定された課題を、仲間と一緒に考えたり、自分でじっくり考えたりしながら自分の学びとして「ふりかえる」ことが大切と考えます。そのためにも、積極的な態度で授業に参加できるような課題を設定するよう、これからも努めてまいります。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

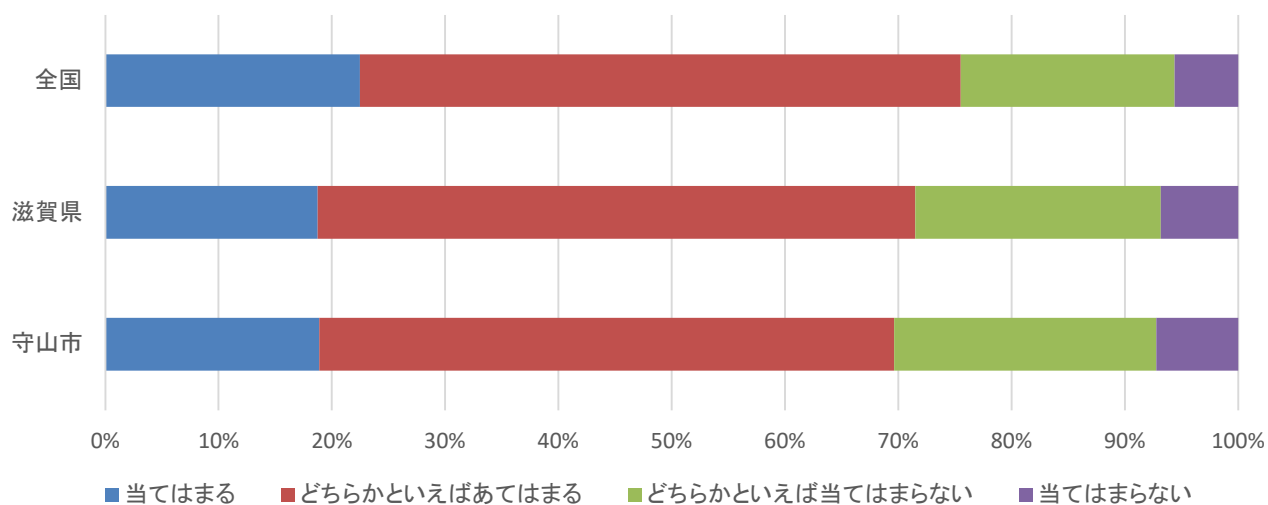


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



家庭での学習時間が、全国平均よりやや少なく、県と同程度の割合となりました。将来の夢や目標に向かって、主体的に学ぶ子どもたちの育成のためには、見通しを立てて学習に取り組めることが大切です。また、自分自身の課題に気づき、その克服のために手立てを考えられる生徒の育成が求められています。デジタルドリルなども活用して、効果的・効率的に自分の伸びが実感できるよう、働きかけていきたいと思います。

### 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」生徒の「当てはまる」と回答した割合は、全国よりやや低くなっています。

総合的な学習の時間を核とした地域学習において、地域関係者の講話や地域へのフィールドワークなどを通して、地域社会の一員として地域課題解決に向け主体的に考える学びを構築し、推進します。